31

扇港樹脂工業 株式会社

http://www.senkojushi.co.jp/



クリーンルームで高品質なモノづくりを徹底

目薬容器のキャップ、全数検査体制を刷新・自動化

平成29年度 補助事業と具体的成果

■ 事業テーマ

製造工程の見直しと それに伴う品質向上、生産体制拡大

■ 事業概要

医薬品メーカーなど顧客のさらなる増産要望に対応するため、従来の目視による点眼薬(目薬)容器のキャップの全数検査体制を刷新。ＣＣＤ(電荷結合素子)カメラ搭載の自動検査機を導入することで、検査技術を先端化するとともに、検査能力を大幅に向上させた。これまでキャップの全数目視検査に関わっていた５人の熟練者を他の製品の検査にシフトし、その高い技能を生かし検査業務のレベルアップも図る。顧客の協力のもと、製造方法を統一する技術の高度化に挑むことにより、品質向上、生産性拡大、利益最大化を目指す。



仕事や社会人の心構えを社内に掲げ共有

課題	取組	成果
●増産に対応するための検査体制の再構築	●自動検査機の導入	●検査業務の効率化、品質向上、生産性拡大

■ 業務内容

射出成形とダイレクトブロー成形で高い技術力

扇港樹脂工業は目薬の容器やキャップ、首曲げボトル、中栓を中心に、医薬品業界向けのプラスチック製品の製造を手がけている。射出成形とダイレクトブロー成形の高度な技術力でこれらを製造。約20社ある主要取引先の多くが医薬品関連で、主力製品の目薬容器・キャップは売上高の約80％を占めている。

平成元年に業界でいち早くクリーン化工場を完成し、製造工程の環境・条件に厳しい医薬品業界のニーズに柔軟に対応しながら安定経営を行ってきた。売れ行き好調な人気商品や、多くの人になじみのあるロングラン商品のキャップや容器を製造していることも、経営の安定化に大きく寄与している。

安定品質で供給、不良品を出さない仕組み

医薬品業界向けの製品づくりには、技術力だけでなく、安定した品質で供給するための管理の徹底と、それを可能にする組織体制の整備も求められる。このため、平成14年に品質管理・保証の国際規格「ＩＳＯ9001」を、次いで平成29年には医薬品の一次包装材料向け品質の国際規格「ＩＳＯ15378」の認証をそれぞれ取得。社全体での教育訓練も積極的に行っており、不良品を出さない仕組みづくりに力を入れている。

平成30年には高度な技術や品質などを誇る大阪府内の中小企業を顕彰する「大阪ものづくり優良企業賞2017」の受賞企業にも選定されている。



主力製品を支えるダイレクトブロー成形機

■ 強みとビジョン

製品の形状に応じて成形方法を使い分け

射出成形とダイレクトブロー成形の二つの成形方法で製造できる点が同社の強み。成形する製品の形状に応じて成形方法を使い分けられるところに優位性がある。キャップやノズルは射出成形機で、容器類はブロー成形機でそれぞれ成形するなど、多様な製品に対応できる。

中でも、５㎖の目薬容器のブロー成形は高度な技術が求められる。このため、生産設備や金型、工法などの工夫により、最適な生産条件を見いだすことで、製品の安定供給を可能にしている。



検査体制のレベルアップも図る

高度な品質管理、クリーンルームも完備

高度な品質管理体制も競争力強化に貢献している。工場内には清浄度「クラス10,000(ＩＳＯ基準クラス７)」のクリーンルームも完備。製品に応じて製造・検査・梱包・発送までこの環境下で一括して行っている。

今後は医薬品メーカーの協力企業として、安定経営を維持しながら、自社ブランドの立ち上げによってさらなる飛躍を目指す。原舜輔社長は「プラスチックを使って、わが社にしかできない何かを生み出したい。今はそのための調査・準備をしている」と、一段の成長に向けて意欲を燃やしている。



クリーンルーム内検査室

成形技術だけでなく、管理技術も日々習得



わが社は医薬品メーカーとの継続的な取引の中で、プラスチック容器、キャップ、ノズルなどの成形技術だけでなく、厳しい品質管理基準の下で安定した品質を維持していくための管理技術についても日々習得しています。そして、さまざまな改善活動を通じて、社の発展・繁栄、社員やその家族の幸福を目指しています。



代表取締役
原 舜輔

- **社　名**　扇港樹脂工業 株式会社
- **代表者**　代表取締役　原 舜輔
- **住　所**　〒576-0054 交野市幾野5−10−1
- **ＴＥＬ**　072−891−0356
- **ＦＡＸ**　072−891−0359
- **資本金**　12,000千円
- **従業員**　29名

- **主な取引先**　医薬品メーカー、商社
- **主な保有設備**　射出成形機、二材成形射出成形機、ダイレクトブロー成形機、画像検査機
- **主力製品**　目薬容器、キャップ、ノズル、首曲げボトル、塗布中栓など

量産OK

REPORTER'S EYE

高齢化の進展やコンタクトレンズの普及などで目薬の需要は右肩上がりで伸びており、同社では検査能力が追いつかない状況が起きつつあった。このため、まずキャップ用の自動検査機の導入により体制を強化した。キャップの天面、底面、側面、内面のネジ部の異物や汚れをカメラで迅速・高効率に検知でき、生産リードタイムや納期の短縮、検査人員のコストの削減にもつなげた。今後は自動検査の技術を社内で水平展開する考えで、品質管理や改善活動に真摯に向き合うものづくり企業の底力を感じた。